

ワクチン情報の説明

天然痘/サル痘ワクチン(JYNNEOS™): 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。www.immunize.org/vis をご覧ください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

天然痘/サル痘ワクチン(JYNNEOS™)は、天然痘、サル痘を始めとする、オルソポックスウイルス(ワクチニアウイルスを含む)による疾患を予防するのに役立ちます。

天然痘は、痘瘡ウイルスに起因する非常に深刻な病気です。緊急時支援員や特定の検査室のスタッフなど、一部の人は、天然痘の原因となるウイルスに継続してさらされる危険性があります。ウイルスは人から人へと広がり、発熱や発疹などの症状を引き起こします。過去に天然痘を患った人の多くは回復しましたが、10人のうち約3人が死亡しました。

サル痘は、天然痘の症状に似ていますが、天然痘よりも症状が軽い、まれな疾患です。しかし、サル痘は死に至る可能性があります。サル痘はアフリカで新たに発生している感染症であり、米国を含む他の国でもサル痘の輸入症例の感染拡大が生じることがあります。

ワクチニアウイルスは、感染した人(別の種類の天然痘ワクチンであるACAM2000®を接種して間もない人への曝露など)や動物に曝露した人で病気を引き起こす可能性があります。検査室でワクチニアウイルスを扱う人は、誤ってウイルスに曝露する可能性があり、感染すると病気になる可能性があります。しかし、ほとんどのワクチニアウイルス感染症は、治療を行わなくても自然に治ります。

2. 天然痘/サル痘ワクチン(JYNNEOS™)

天然痘/サル痘ワクチン(JYNNEOS™)は、弱毒化した生ワクチニアウイルスで作られており、天然痘やサル痘などの感染症を引き起こすことはありません。

JYNNEOS™は、天然痘又はサル痘感染のリスクが高い18歳以上の成人における天然痘及びサル痘の予防を目的として、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局(FDA))により承認されています。

- CDCは、オルソポックスウイルス感染を引き起こすウイルスに曝露される可能性のある特定の検査室のスタッフおよび緊急時支援員に対し、JYNNEOS™の接種を推奨しています。

- またCDCは、ACAM2000®を投与する人、またはオルソポックスウイルス感染患者を介護する人に対して、ワクチンの接種を検討するよう推奨しています。

通常、JYNNEOS™の投与は2回の注射を4週間の間隔を空けて行います。過去に天然痘ワクチンを接種している人は、1回の接種で十分な場合があります。

天然痘、サル痘、その他のオルソポックスウイルスに曝露するリスクが引き続きある人の場合は、2年または10年ごとに追加接種が推奨されます。詳しくは、担当の医療従事者にお尋ねください。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- 過去に天然痘ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある
- 免疫力が低下している
- 妊娠している、または妊娠している可能性がある、または、授乳している

場合によっては、担当の医療従事者は、JYNNEOS™による天然痘/天然痘のワクチンの定期(曝露前)予防接種を、後日の来院まで延期することがあります。

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、ワクチン接種を受けることができます。病気の程度が中等度または重度の場合は、通常、病気が回復してから、JYNNEOS™の定期(曝露前)予防接種を受けるほうがよいでしょう。サル痘ウイルスへの曝露によりJYNNEOS™ワクチンを受けることが推奨されている場合、併発疾患、妊娠、授乳、免疫低下の有無にかかわらず、ワクチン接種を受ける必要があります。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

JYNNEOS™は通常、他のワクチンの接種時期に関係なく接種できます。しかし、心筋炎（心筋の腫れ）のリスクがより高い特定の人々（青年または若年成人男性を含む）では、特定のCOVID-19ワクチンを受ける場合、JYNNEOS™のワクチン接種から4週間待ってから、COVID-19ワクチンの接種を受けることを検討するほうがよいでしょう。ただし、サル痘ウイルスへの曝露によりJYNNEOS™ワクチンを受けることが推奨されている場合、COVID-19ワクチンを受けて間もない場合でも、ワクチン接種を受ける必要があります。

4. ワクチンの副反応のリスク

- ・ JYNNEOS™のワクチン接種後に最もよく起こる副反応は、注射部位の赤み、痛み、腫れ、かゆみです。
- ・ 疲労（疲労感）、頭痛、筋肉痛も、JYNNEOS™のワクチン接種後に起こることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

あらゆる医薬品による場合と同じく、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や重篤な障害が起こったり、死亡に至る可能性はごくわずかにあります。

JYNNEOS™ワクチンの接種後は、V-safeに登録できます。スマートフォンを使用してvsafe.cdc.govにアクセスしてください。V-safeは、あなたや扶養家族がJYNNEOS™ワクチンの接種後のからだの状態や調子についてCDCと共有するための安全性モニタリングシステムです。詳しい情報については、www.cdc.gov/vsafeを御覧ください。

5. 深刻な問題があればどうすればよいですか？

ワクチン接種を受けたクリニックを去った後に、アレルギー反応が起こる可能性があります。重度のアレルギー反応の症状（蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感）がみられた場合は、9-1-1番に電話し、お近くの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System（ワクチン有害事象報告システム（VAERS））に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、ご自身で提出することもできます。VAERSのウェブサイトへアクセスいただくかwww.vaers.hhs.gov、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 対策型損害賠償補償プログラム

Countermeasures Injury Compensation Program（対策型損害賠償補償プログラム（CICP））は、特定の医薬品やワクチンによって重度の傷害を負った特定の人々の医療費やその他の特定の費用を支援する連邦政府のプログラムです。天然痘／サル痘ワクチン接種により傷害を受けた方は、本プログラムのウェブサイトwww.hrsa.gov/cicpをご覧ください。1-855-266-2427（855-266-CICP）までお電話いただき、このプログラムの詳細についてお問い合わせください。

7. 詳しい情報を知るには？

- ・ 担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・ 現地または州の健康管理部門にお電話ください。
- ・ ワクチンの添付文書および追加情報については、米国食品医薬品局（FDA）のウェブサイトwww.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccinesをご覧ください。
- ・ Centers for Disease Control and Prevention（疾病管理予防センター（CDC））にお問い合わせください。
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/poxvirus/monkeypox

Japanese translation provided by Immunize.org

